
クルス

奇空の朱

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クルス

【Nコード】

N1112B

【作者名】

奇空の朱

【あらすじ】

探偵業を営む十文字隼施は、度々不思議な事件に遭遇する

プロローグ

俺の名は十文字 隼施、探偵だ。

十文字探偵事務所を開業してから一年、仕事は順調で助手の佐伯愛理と依頼される事件以外は申し分ない。

最初のある事件がきっかけで変な仕事ばかり依頼されるのだ。

おかげで、不本意だが人は俺の事をこう呼ぶ、怪奇探偵クルスと。なんともセンスのない二つ名だ。

プロローグ（後書き）

初めまして。奇空の朱です。いたらない文章ですが、よろしく願
いします。

case 1-1

昨日と同じぐらい今日も天気がよく、太陽も焦がれるように暑く眩しく、これぞ夏って感じた。

俺が今いるところは喫茶店、八百屋、魚屋、なんでもある商店街だ。この商店街の一面に、異質な雰囲気を放つ探偵事務所を開業した俺は、暇な午前の時間を隣りの喫茶店キッズでビールを飲んで過ごしていた。

「十文字さん。今日はお仕事お休みですか？」

ヒラヒラのメイド服みたいな物を着た、ウェイトレスの早紀ちゃん、

からになったジョッキを笑顔でさげにくる。

早紀ちゃん笑顔、通称天使の微笑を見るだけで今日一日生きていて良かったと思える。

俺が調べたところ、近くの高校に通っている女子校生で、今現在彼氏がいないらしい。

「ああ。今日は定休日だよ、早紀ちゃん」

ちよっと声のトーンを低くして、ハードボイルドっぽく、返事をするがそれを無効化するかのように、商店街のガキンちよがうるさく店に入ってくる。

「ああ！クルスが仕事さぼってる！」

ガキンちよの一人が俺を指差し、嫌な名前で俺をよぶ、クルスというのは俺のあだ名みたいなものだ。誰が言い出したか知らないが、御近所さんの七割は俺の事をこう呼ぶ、なんでも十文字をクロスに英訳して、親しみやすいようにクルスにしたらしい、なんでも英訳したがるのは日本人の悪いくせだ。

「うるせえ！クソガキども」

「わー！怪奇探偵が怒ったー！」

怒った俺を逆撫でるように、嫌なあだ名第二弾を、ガキどもはいい始める。

ガキどもの言う怪奇探偵とは、俺が最初に受けた依頼の内容を、守秘義務すら知らないバカ助手の、佐伯 愛理が商店街の皆さんに喋ったのが始まりだ。噂が噂を呼びそれ以来、依頼内容がどこことなくオカルトめいてるところから、怪奇探偵と呼ばれている。怪奇探偵にクロス、まるでエクソシストだ。いっその事、探偵十文字 隼 施じゃなくて、エクソシストクルスに転職しようかまじめに考えてしまう。

「ただいま。早紀ちゃん留守番すまないね」

喫茶店のマスターの一文字さんが帰って来る、俺と同じような名字なのに、彼は一文字さんかマスターと呼ばれ、誰もワンさんとは呼ばない不公平だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1112b/>

クルス

2010年10月11日02時02分発行